第 47 回九州地区救護施設職員研究大会報告

～地域共生社会の実現に向け、
セーフティネットとしての救護施設機能を広げよう!!～

《大会概要》

上記テーマのもとに、令和 6 年 7 月 11 日（木）～7 月 12 日（金）に鹿児島市のホテルマイステイズ鹿児島天文館にて、第 47 回九州地区救護施設職員研究大会が参集型で開催され、九州地区各施設から 89 名の参加がありました。

第 1 日目は、開会式、中央情勢説明、意見発表（9 施設）、グループ討議が行われました。

第 2 日目は、前日のグループ討議の振り返り・まとめ、そして総評がありました。大会の締めくくりのプログラムとして、特定非営利活動法人かごしま探検の会代表の東川隆太郎様を講師として、「薩摩藩の原動力をひもとく」という演題で記念講演を行いました。

閉会式では、次期開催県を代表して彦山の森の菊本恵施設長があいさつを行いました。

今回は、意見発表した 9 施設から 3 人の優秀者を選出し表彰を行うなど、全国大会に繋げる大会としても有意義な内容になりました。

○ 期日　　令和 6 年 7 月 11 日（木）～7 月 12 日（金）
○ 会場　　ホテルマイステイズ鹿児島天文館（鹿児島市）
○ 主催　　九州地区救護施設協議会
○ 後援　　鹿児島県、鹿児島市、鹿児島県社会福祉協議会、全国救護施設協議会

※詳細については、大会冊子をご参照ください。

《主な日程と内容》

7 月 11 日（木）

【開会式】〈９：００～９：３０〉

開会のことば　　九州地区救護施設協議会　副会長　上間丈文氏

主催者挨拶　　九州地区救護施設協議会　会　長　和田徳行氏

来賓挨拶　　鹿児島県知事（鹿児島県保健福祉部　次長）

竹村直子様

鹿児島市長（鹿児島市福祉支援部　部長）

小倉和代様

鹿児島県社会福祉協議会　会　長　布袋嘉之様

登壇者紹介

【中央情勢説明】〈９：３０～１０：１５〉

全国救護施設協議会　会　長　大西豊美氏

【意見発表Ⅰ】〈１０：３０～１２：００〉

テーマ①　地域共生社会に向けた救護施設の取り組み

「求められる施設を目指して」　野坂の浦荘　田上成美氏

「地域に必要とされる施設を目指して」　かんざき日の隈寮　黒岩友樹氏

テーマ②　利用者の地域生活移行に向けた個別支援計画の策定と実行

「利用者を知る」　野の花　山口智史氏

「個別支援計画書の制度化を控える中での彦山の森の現状と課題について」

彦山の森　木谷　光氏

「利用者の持つ力を信じて」　すみよし　新田満春氏

〖昼食・休憩〗〈１２：００～１３：００〉

【意見発表Ⅱ】〈１３：００～１４：３０〉

テーマ③　虐待・権利侵害の根絶に向けた取り組み

「気付きから学ぶ人権意識」　ときわの丘　木下貴子氏

「真和館が目指す人権を尊重した支援」　真和館　二上達也氏

テーマ④　施設生活を豊かにする取り組み

「利用者の声から」　愛の家　嶋田康人氏

「コロナ禍で学ぶ　豊かさとは」　しみず園　大石和徳氏

【グループ討議（分科会）】〈１４：４５～１６：４５〉

7 月 12 日（金）

【振り返り・まとめ及び総評】〈９：０５～１０：０５〉

第１分科会　テーマ「地域共生社会に向けた救護施設の取り組み」

懸案事項について

① 公益的な取り組みを行う中での地域ニーズをどのように把握するか。
地域に出向き地域の各団体との交流や地元の方とのふれあいが大切
② 具体的にどのような取り組みを行っているか。
地元の祭りや文化祭に参加し、そこでいろんな意見をもらう。
③ 困窮者への支援の内容は。
ライフレスキュー事業の活用など

地域移行について

就労支援などで利用者の背中を押すことは重要だが、一方で施設の利用者が定員割れを起こすこともありジレンマがある。

意見発表について

かんざき日の隈寮の防災への取組に関しては、体験から新たな発想が生まれ BCP などを見直す良いきっかけになる。

野坂の浦荘の取組については、施設長のリーダーシップと職員の協力体制が事業の充実につながった。

第 2 分科会　テーマ「利用者の地域生活移行に向けた個別支援計画の策定と実行」

懸案事項について

地域移行支援期間がどの程度で内容はどうなのか。

地域移行支援の中で起こる課題について（金銭管理、スマホなど）

上記の 2 点について意見交換を行った。

制度化に向けて

① 利用者との対話を重ねて真のニーズを引き出していくなど、アセスメントをていねいに行う。
② 個別支援計画に関わる職員が同じレベルで対応できるように、マニュアル作成や研修機会をとおして情報の共有を図っていく。
③ 福祉事務所との連携については、救護施設から積極的に働きかけていくことが大切である。

第 3 分科会　テーマ「虐待・権利侵害の根絶に向けた取り組み」

懸案事項について

マニュアルの作成と職員のメンタルチェックが重要である。

自分たちの支援を常に振り返りながら、虐待・権利侵害について意識する環境が必要である。

九州地区と全国とを比較すると・・・

全国の調査結果によると、虐待防止委員会の設置率が全国 65.9%に対し

て九州は 44%。虐待防止マニュアルの作成については、全国 74.4%に対して九州は 60%であった。この 2 点についていえば九州は全国に比べて見劣りする状況である。

これからは、体制づくりと職員の研修機会の確保、虐待防止委員会の立ち上げ等を進めていかなくてはならない。

第 4 分科会　テーマ　施設生活を豊かにする取り組み

懸案事項について

コロナで活動の制限があり利用者のストレスが増大した。その対策として、行事の規模を縮小して実施したりお弁当での食事会を行ったりなどして、利用者のストレス解消に取り組んだ施設が多くあった。

今回の経験により、感染症に対する利用者の意識が高まったことは良かった。

今後の取り組みについて

コロナは 5 類に変わったが、これまでの対策を活かしていくことが大切である。また、まだ再開できていない行事や地域交流の機会については、徐々に再開していく必要があるのではないか。同時に、行事の再開となると職員の業務が増えることになるので、知恵を出し合ってさらなる業務の効率化や働きやすい環境づくりを進め、利用者のみならず職員の生活も豊かになるようにしていくことが重要である。

【記念講演】〈１０：１５～１１：４５〉

講師　特定非営利活動法人かごしま探検の会　代表　東川隆太郎氏

演題　「薩摩藩の原動力をひもとく」

《講演内容》

この鹿児島というところは、今から 150 年前に明治維新の原動力となり、いろんな部分で活躍してきた。

では、どうしてそうなったのかということについては、もちろん西郷とか大久保とか個人だけの努力ではなくて、いろんなことがちょうど噛み合って、そして、それぞれが融合してでき上ったものである。その動きに関しては、隣県である沖縄県から九州各県それぞれとのつながりの中で起こっている。

では、明治維新とは何だったのか。そして、鹿児島はどのような役割をしたのか。

江戸期の薩摩藩とは・・・

明治維新の立役者となった多くの人材をなぜ輩出できたのかという点について。

教育面で言うと社会教育と学校教育、そして家庭教育がある。薩摩藩が特に大切にした

のが社会教育と学校教育であった。薩摩藩の特徴としては、郷中教育（ごじゅうきょういく）というものがあった。これは地域の先輩たちが後輩を育てる人材育成の仕組みであった。さらに、開成所という教育機関もあり、そこでは先進的な教育をしていた。
郷中教育の特徴とは・・・

・品行を正し、利欲を去り、公のために身を捧げる人材の育成
・自分のことを自分で決めるというより、自分たちのことを自分たちで決める教育
・「詮議」といって徹底的に議論し合う場を設ける　など

このような教えをとおして、地域のルールづくりや即座の対応能力の訓練をすることで有事対応能力の育成を図っていた。
財政面ではどうだったのか。
財政面での重要人物が調所広郷であった。薩摩藩の命を受け、借金を返済し貯金を増やす改革を行った。
調所広郷の改革

・国産品の改良増産（米・蝋・菜種など）
・砂糖の専売制の実施
・河川改修工事（災害を減らし安定した収穫を得る）
　岩永三五郎を熊本か招致し土木技術の向上を図った。
・琉球王国との交易

島津斉彬の存在
斉彬があげた多くの功績の中でも集成館事業は、日本で最初の近代的な工業群であり、世界遺産となっている。反射炉の技術は、佐賀藩から教えてもらったもの。富国強兵の考え方が他の藩主よりも強く、琉球王国や長崎からの情報をもとに近代化を進めていった。必要となる莫大な費用の財源は、調所広郷の功績であった。
また、英国留学生（若き薩摩の群像）を派遣し、外国の技術を学ばせた。
西郷隆盛とはどのような人物だったのか。
江戸終わりの頃は、下級武士の優秀な人材が登用されるようになった。その筋道を築いたのが西郷隆盛であった。
西郷は自分のことは自分で決める性格だったため人から好かれた。お金や地位を求めず、自分が範を示すところが人を惹きつける要因だったのではないか。また、不利な状況を勝利に導く胆力があった。さらに、気配りができる人で、特に敗者への気配りがすごかった。
江戸城の無血開城を行い、江戸を焼け野原にしなかったことを江戸の人たちは知っているため、西郷の銅像第１号は東京上野にある銅像である。
たくさんの功績があるが、廃藩置県、地租改正、徴兵制、学制などは、政府要人が外国に行っている留守中に西郷が行ったものである。
西郷の大きな功績の一つが江戸城の無血開城であるが、西郷は戦争を回避できる力があ

った。ところが、なぜか討幕の時は武力討幕にものすごくこだわった。このことは謎である。西南戦争は回避できる戦争であったが、それなのになぜ踏み込んだのかも謎である。大久保利通はどのような人物だったのか。

能力が高く、自分にも人にも厳しい面があった。

西郷が遠島（奄美大島、沖永良部島）されている間、指揮を執っていたのが大久保であった。彼の父親が琉球館付役だったことの影響で琉球のものに触れる機会が多かったため、ハイカラであったのではないかと思われる。

西南戦争では、西郷と意見が分かれ新政府側についたため、県内での評価が分かれる。

英国留学生について

19 名の留学生の派遣について、発案は島津斉彬だが、具現化したのは五代友厚であった。留学の費用は藩が出したので、あまり身分が低い人は選ばれなかった。開成所の成績優秀者などが選ばれた。

待遇は厚遇（ファーストクラス）で、2 か月間の船旅の中で紳士としての資質とマナーを学ばせた。

翌年には米国留学生を派遣しており、その中から初代日銀総裁の吉原重俊、東京株式取引所所長の谷元道之、北海道にじゃがいもを植えるなど開拓使として根室県令にも就いた湯地定基などがいる。

まとめとして、

九州・沖縄と鹿児島のつながりはものすごく深いものがあった。幕末、明治維新は薩摩藩だけでやったのではない。琉球との情報交流・貿易交流、他にも九州各地域とのつながりによって薩摩藩が明治維新の立役者になったということを知っていただきたい。

【閉会式】〈１１：４５～１２：００〉

優秀者表彰式

野坂の浦荘　　田上成美氏

かんざき日の隈寮　黒岩友樹氏

野の花　　山口智史氏

次期開催県挨拶　　長崎県　彦山の森　菊本　恵氏

閉会のことば　　九州地区救護施設協議会　副会長　上間丈文氏